



增補考古畫譜

卷二

十  
103





門子  
803  
卷



補真蹟曰。宇佐八幡  
宮繪詞。即宇佐八  
幡宮緣起。此の  
外。異本あり。は  
部八幡宮緣起の條  
見合之べし。

增補考古畫譜卷二

宇部

補宇佐八幡宮繪詞 三卷

補書畫筆者姓名不傳

補本朝畫圖品目云。宇佐八幡繪詞三卷。奧書寶治  
年中

補八幡宇佐宮御託宣集卷尾云。和氣清麻呂爲勅  
使。參宇佐宮。事被書繪詞。私曰此繪者。後白河院御  
宇被納蓮華王院寶藏。相公顯雅卿爲辨官之時。依  
奉寶藏事之次。被寫置此詞矣。寶治年中云云

黑川春村原稿  
古川躬行纂輯  
黑川真賴增補



白相補考古畫譜卷三



補春村曰予が見し本二卷あり。缺本歟。詞も缺たり。

宇佐行幸圖 一卷

補本朝畫圖品目云。宇佐行幸畫圖品類も亦同ト

同祭儀圖

畫圖品類云。宇佐祭儀圖一卷

雲圖抄 二卷

右衛門權佐藤原重隆撰。有裡書

奧書云。此書者故都護納言為藏人頭時。故右金吾被抄出云云。件草傳在此家。而去年依不意之事。文籍紛失之間。已為其中。雖為寸餘不肖之身。猶有愚忠奉公之思。彼正本金吾御自書。傳在故前納言朝隆之許。仍所借請侍中左朝方司郎也。寫圖書銘于時永曆寂

初之幸。無射上旬之候也。近代識者之家。以此為明鏡。云云。為規模而已。未葉左監門負外將軍長秋內給事藤原為親押書。嘉應二年仲春之頃。以右中丞御本寫之畢。子細被書載。仍所寫留也。工部尚書藤原親雅押。

羣書類從本跋記云。右雲圖抄者。鳥羽院御宇。按察中納言顯隆為藏人頭時。所命其弟右衛門權佐重隆抄出也。後散逸。獨藏其姪權大納言朝方家。右中辨為親者。朝方從父兄弟也。因請寫一本於其家。今刻者蓋為親真本云。

春村曰。重隆ハ元永中卒。と尊早分脉ハ。顯隆卿出む。鳥羽の御宇盛ハり。こと志ハる。顯隆卿ハ一代要記ハ。永久三年八月十三日補藏人頭



と見延。公卿補任。元永三年正月六日叙從三位。元藏人とあまバ。雲圖抄ハ永久四五年の頃出來けん事必定也。抑此重隆ハ裝束司をも勤仕せらる。成る。其所為ハ此雲圖抄の之らバ。裝束抄をも作り仁也。さるハ吉部秘訓抄仁安四三。寛治家記。依弁官着布袴之由被注之云云加之。重隆裝束抄。殿上佐雖須着衣冠。寛治依兼弁官着布袴之由注之。とみ延たり。秘訓ハ民部卿經房卿の吉記の抄出也。經房ハ為房卿の曾孫也。重隆ハ大伯父也。寛治家記とあるハ。則為房卿の記あり。因云先輩雅亮抄を。裝束書の祖とおお江て。夫より前ハ此重隆裝束抄ある事をいもと世間ハ知る人あり。

さるを後世傳本あり。惜むべし。躬行曰。本朝書籍目錄雜部。雲圖抄二卷。大納言朝隆撰と記。群書一覽小。朝隆卿とせるハ。とも誤り

太秦太子龕扉繪

倭錦云。太秦太子龕扉繪。蘓我馬子妹子像。公望筆。寺社寶物展覧目錄廣隆寺。云。聖德太子扉繪。寛文中。年中。自性院先住如全。再加修復。近來寫手作意也。加。たる也。証據ありがたし。

躬行曰。蘓我馬子。妹子。博士學架。惠慈等四人の像あり

補真頼曰。太秦太子龕の扉の繪ハ。蘓我妹子馬子二人の像あり。いノ部も掲げたり



太秦牛祭繪 一卷

古畫類聚目錄云。麻叱羅神祭圖。住吉法眼筆。與書云。右九月十二日太秦廣隆寺牛祭々々文也。惠心院源心僧都應永九年九月十二日夕書之。補本朝畫圖品目云。應永九年九月十二日。惠心院源心僧都作

補古畫目錄云。太秦廣隆寺牛祭圖一卷。惠心院源心僧都作。ト云。寛政丁巳四月二日觀

躬行曰。擁書漫筆云。この年號さらば源信僧都の時代にあつねど。その僧都の作らざりし文を用ゐて。年毎々年月のこを書改めつるあり。といへり。此説然るべし。但近年岸本由豆流摹刻の本あり

躬行曰源信世は惠心僧都と稱せ此書は源心とあるは誤なり  
補真頼曰太秦牛祭繪ハ摩訶羅神祭繪ともいへりまの部見合をべし

宇治拾遺物語

倭錦云。住吉如慶。宇治拾遺

産屋繪 一卷

補本朝畫圖品目云。産屋繪一卷

躬行曰。柳庵隨筆。産屋畫。病雙紙の殘缺。や無詞。とみ延たせと。按。病草子ハ。一病一段。不連続せおとのあく。且平産を異疾とせべからぬバ。信亮の説うけがらるべし

浦島雙紙 一卷

本朝畫圖品目云。浦島雙紙。書畫筆者不詳。類畫圖品又同ト目

補真頼曰。浦島雙紙ハ。御伽草紙のうちよるあり



補同 一卷

補所藏不詳

補真賴曰。摹本淺草文庫にあり。卷尾云。右浦島子畫卷一軸古摹本。白川少將より。備用再摹之。文政二年己卯正月下旬花押と見たり。卷端は龜を釣るる所。卷尾は浦島の社の祭の圖等あり。但詞書あり。

同 一卷

繪飛鳥井入道榮雅女一位局。詞後柏原院勾當内侍。本朝畫圖品目云。畫卷一巻。

函裏書。有高野山無量壽院得仁押之名。小卷也。住吉廣尚鑑定。故西村宗先藏。

同 殘缺 一卷

後土御門院勾當内侍。書畫一筆

躬行曰。長五寸餘の小卷。古筆了伴鑑定。墨坂堀家所藏。但下卷逸也。

梅津長者物語 二卷

補本朝畫圖品目云。梅津長者物語。畫者姓名不傳。畫圖品類云。四卷。畫工不傳。

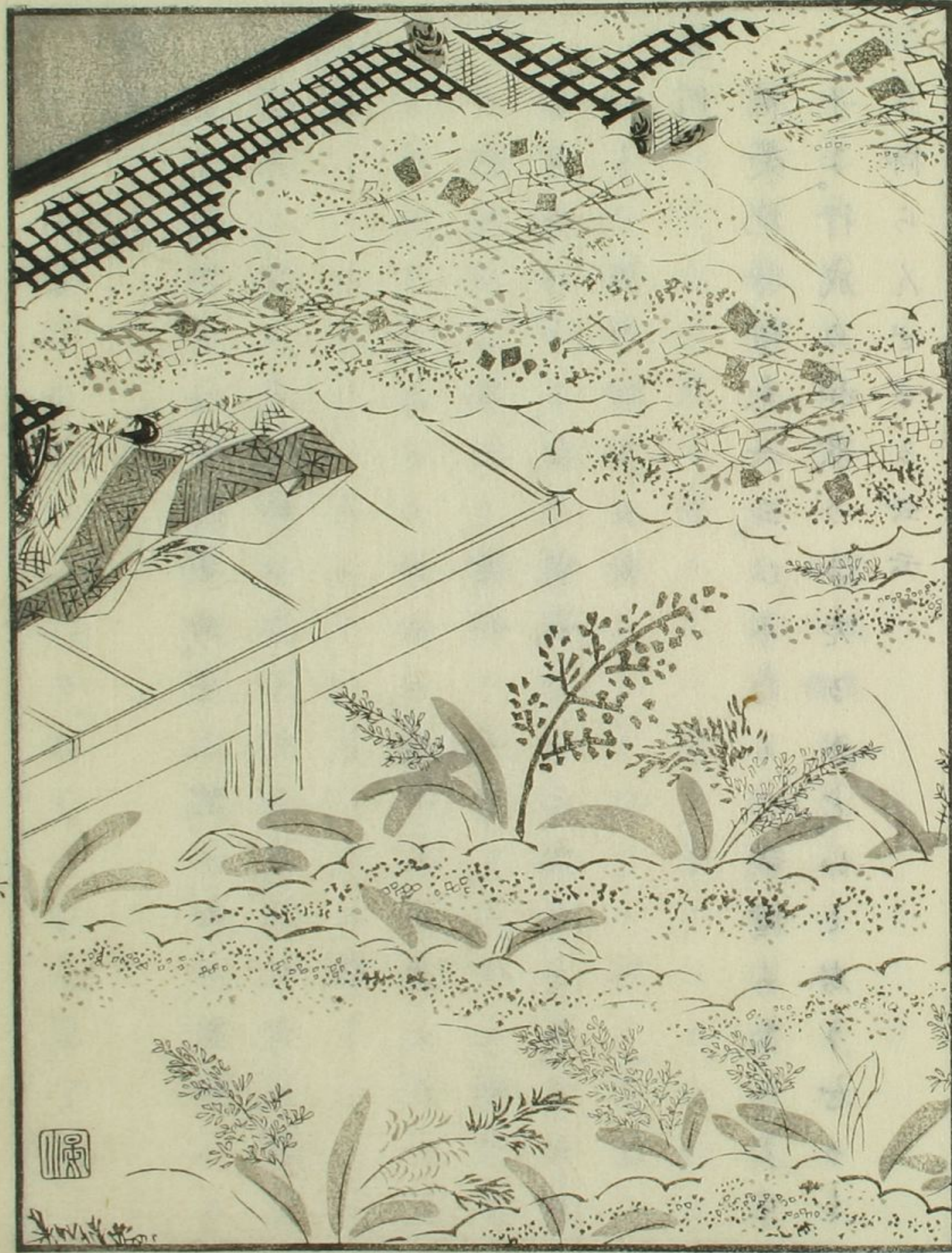
知雄曰。所藏摹本奥書。住吉内記廣澄筆とあり。躬行按。此物語二卷全備の之のあり。畫様古から。具慶筆あらん。

歌の意の繪 一卷

所藏不詳。畫工姓名不詳。

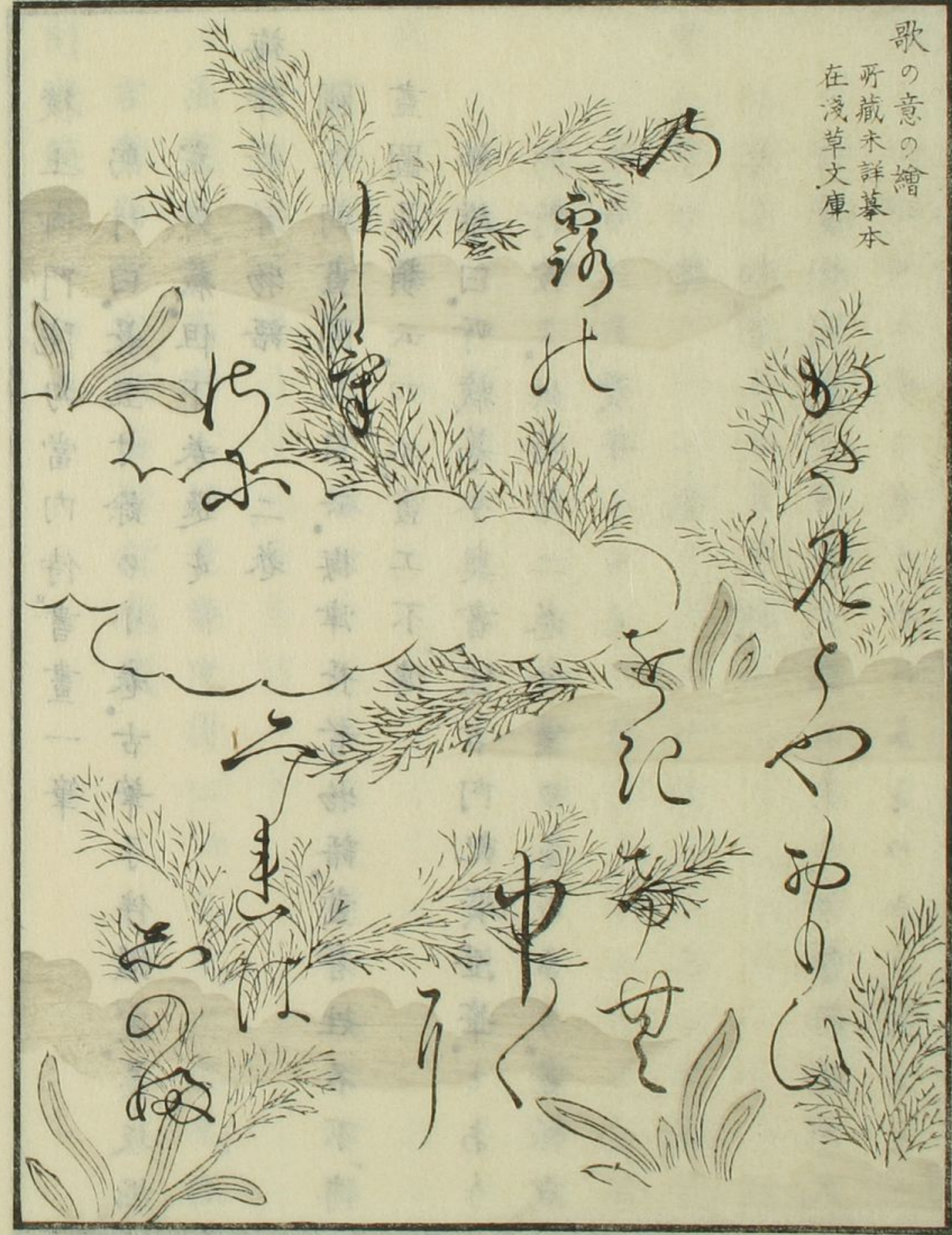
補真賴曰。摹本淺草文庫にあり。伊勢物語源氏物語等の歌の意をかきよるのあり。歌をそへ





梅雨補修古書

六



歌の意の繪  
所藏未詳摹本  
在淺草文庫

梅雨補修古書



てあり

補同

補前大納言公任卿集云。花山院のか、せ給へる紙畫。歌つけて給りたりける。人々さふべき所ハつけを、あがりけむ。人の鶴ひてふ。ひろげてる。所云云。藤原長能集云。花山院の御てづらか。繪か、せ給て。人々は歌つ。させ給ひ。秋の前裁さきみたむ。をみぢあも。ろき所云云。

補同

補榮花物語卷六云。ひろたの歌繪のたむ草子。行成の和歌うきたる。いと。おうをう。御らんせらる云云。

補同

補源平盛衰記卷二。清盛息女。係云。異本ニ云ク。八ハ大納言有房卿ノ北方也。繪書キ花結ビ諸道ニ達レ給ヘリ。心ニ哀ミ深メ人ニ情ヲ重クセリ。女房ナレドモ聯句作文モ並ナク。手跡サヘ嚴ノ。畫圖ノ障子ニ百詠ノ心ヲ繪ニカ、セ給テ。ヤガテ一筆ニ色紙形ノ銘ヲモ書給タリケレバ。院モ希代ノ女房也。トゾオホセケル。

補同

補畫工便覽卷三云。繪式部。平太夫從五位下繁兼之女。戲好翫丹青圖和歌之心。故于世稱名。

補歌合繪

補榮花物語卷六。根。七。云。かくて右大臣どの、

増補源平盛衰記卷二



姫君内よまゐらせ給ぬ。京極殿をまはいとせ  
し。琵琶をうせ給ひ。繪をといとめでたくわへせ  
給ふ。をとこ繪をと繪師をづうしうわへせ給ひ。  
ゆゑうとあうをうしうおとしまは。御うたぢま  
いとをうしげあり。あひぎやうつきふくらうま  
ま、やうまぞおとしましけあまことや内よ歌  
合せさせ給ひき。まご女御殿も参らせ給をさり  
し時の事あり。十月つごをうとありしほど。のび  
て霜月の九日ある。殿上人左右はわうたせ給ふ。  
文臺はうねの洲濱ま。うねの五葉ま。か祿のつた  
色々まいろどりたる。うりさるいとをうし。  
ろまとの兵衛佐かきたま。右はうねのまきむこ  
ふ。硯のまおとおあどたま。さうしどををらむた

里歌のまろむへを題し。あたらひつうし。繪  
む書たり。てはあむいどのういあをのめのと云  
々

補同

補同書卷卅六根云。右は櫻人といふことを。  
志ろくねの洲濱まして。歌うくまのた。はうし十  
帖。志ろくねこが祿ふせんまうぎうかんをつく  
してニブ。銀あがねの糸をんまむをびて。玉  
ををんまをたり。歌かくべきさうしどまよこ  
の題の心むへを。男繪女繪とあきたるまうねゆ  
きぞ歌はうきたる。歌をむねとしさる。ことま  
どわろををのまわへまべき。繪かきいしを  
のま書をべきありと。左の人々まときけり。数さ

増補源氏物語卷二



ハ鶴を松をまませさり。左りの歌ハ卷之の二  
つもて。こゝろ祓のへう玉をつらぬきて。ひも  
去たり。繪をこまぬ。題は志たぐひてりきなり。歌  
ハ經任の中納言権大夫の母北方うき給へり。九  
十よの人のさをりぬまうたぬあきなり。九  
露も墨がませむかきかたぬ給へる。あさましう  
めでたし

補 歌合の題目の意の繪

補 祐子内親王家歌合 永永五云。女房所獻哥置筥

上各書彩牋。或以題目趣施畫圖。或以金銀泥成文

彩。風流之美。不可觀。縷男以白色紙書之。兼房朝臣

補 うたへ繪

補 古今著聞集卷十一云。繪師大輔法眼賢慶が弟

子も。あまがしとやいふ法師有けり。賢慶逝去  
ののち。後家と不便ニ成て。相論の事有けり。六波  
羅に訴へけむ。事ゆゑ程益けむ。此法師  
繪もさうしく書ける。名のよて。くだんの後家が  
ありさまふるまひを。そとめよりかきあはせし  
て。あり。ま男して會合したる所を。とさまし。い  
書て。えもいをむ。いろどりて。詞付て。六波羅へ持  
て行て。奉行のその共に見せけむ。訴訟をこと  
は執申さんの心ハありけむ。繪其興ある  
まよりて。とくをて。さまよふ程。兩國司まで  
も見て。訴訟のむねく。とく。ろえ。とさ  
け。つひ。ち。けり。件の法師攝津國宇出庄  
ま。い。ま。ご。あり



補牛若物語繪

補圖畫一覽上卷云。詞存畫逸をるとの。牛若物語云云

補柳菴隨筆云。詞のつとハりて。繪の散逸をるとのあり。牛若物語云云

補歌合人物繪

補異本土佐系圖云。刑部大輔光長頭注云。畫歌合之人物。三井八郎右衛門藏也

補土佐系圖光長頭注云。歌合人物ハ。三十六歌仙畫也。今不全備

補真賴曰。此の畫恐らくハ三十六歌仙繪るるべし。三十六歌仙繪ハ。さの部ハいごせり。見あ

馬繪

三代實錄云。貞觀十年十二月云云。左大臣從二位源朝臣信者。嵯峨太上天皇之子。源氏第一郎也云云。大臣學性強雅。風尚不恒好讀書傳。兼嘉草隸。又工圖畫。丹青妙。馬形寫真

同

本朝畫史云。後京極攝政諱良經。九條兼實公子也。奉仕土御門院。攝政。歲卅八薨云云。吟詠之暇。好畫馬形。丹青諸家皆服其妙。時人稱曰。普賢寺殿之牛。後京極殿之馬。稱為一雙名手。事見于駿牛繪詞

同

同書云。鳥羽僧正覺猷。源隆國子。西宮左大臣高明公孫也。為天台座主法務。及三井長吏大僧正。住醍



酬。又居鳥羽。故号鳥羽僧正。專為倭畫。善人物。自為一家。寫意不求形似。云云。又畫馬形。極其妙。僧正曾見天閑十二匹馬。妙為之。此圖如今流布于世。躬行曰。鳥羽僧正。宇治大納言隆國卿九男。保延六年九月十五日寂也。年八十八。隆國卿。大納言俊賢卿の子。高明公の孫也。

同

名畫拾彙云。後陽成帝嘗御畫六馬於一板上。揭清水觀音堂。筋骨駿逸。大有生意。眾舉嘆伏其神妙。

同

同書云。後水尾院御畫。殊清爽。有活動。僧宗彭詩集云。後水尾上皇畫馬圖。水墨淋漓。洌不乾。宜和盛事。照心肝。天機已到。試天步。于闐筆。騶跳筆端。

補同

補古今著聞集卷十一云。仁和寺の御室といふ。寛平法皇の御在所也。その御所は金岡筆をぬる。ひて畫きける中。殊に勝れたる馬形をむ侍ける。其りよ夜々をぬきて近邊の田をくひまう。何もの、をふと志せるもの、かくて過侍ける布ど。件の馬のおしよ土つきてぬきまうとある事だびりよおよびけるとき。人々あやまら。このうまの志まぎまやとて。壁よりきたるおまのめをわうくとりてけを。そきより目かくるりて。田をくふ事とまらまけり。

補同

補中右記云。天永三年十月十九日。可渡御新造大



炊殿也。予依為上卿辰時許着束帶參仕中。見廻所  
々之所。朝干飯壺布障子皆悉畫馬形。里亭多相具  
打球也。仍俄可畫具打球圖之由。下知繪師信貞則  
令畫圖了。令立誓云云

補同

補倭錦云。小川僧正馬之圖

補翰林五鳳集卷卅八氣形云。小河僧正五歲馬圖

天。小河大僧正雖為浮屠氏。善相馬。亦能畫馬。韓幹  
江都王之匹也。僧正持誦之餘暇。圖一馬。謂人曰。馬  
之五歲而筋骨步驟背斯者。天下駿材也。小笠原成  
貞得斯圖以藏于家。遂付令嗣成孝々々。囑之於令  
弟用公侍者。々々々々以為其父兄傳。十襲以秘之。  
就余需措鄙詞於其上也云云

牛繪

本朝畫史云。普賢寺攝政諱基通。近衛關白基實公  
之子也。奉仕於五朝而攝政於三朝。歲七十四薨。遊  
藝惟多。殊工書畫。曾畫牛。得其精妙

補牛馬繪

補吉槐記云。乾元二年正月廿九日日吉御。參御八  
王子。御步行。還御之時。被用御手輿。人々候御前。被  
聞食供御。任禪法眼。被召御前。畫牛馬之似繪。堪能  
事也。今夜御通夜于十禪師云云。予不參

補馬醫繪 一卷

補本朝畫圖品目云。馬醫繪一卷

補好古小錄上卷云。馬醫繪一卷。往年古本ヲ見ル。  
無用ノ長物トイヘドモ。古色アルモノナリ。住吉



馬醫繪  
所載未詳摹本  
在淺草文庫



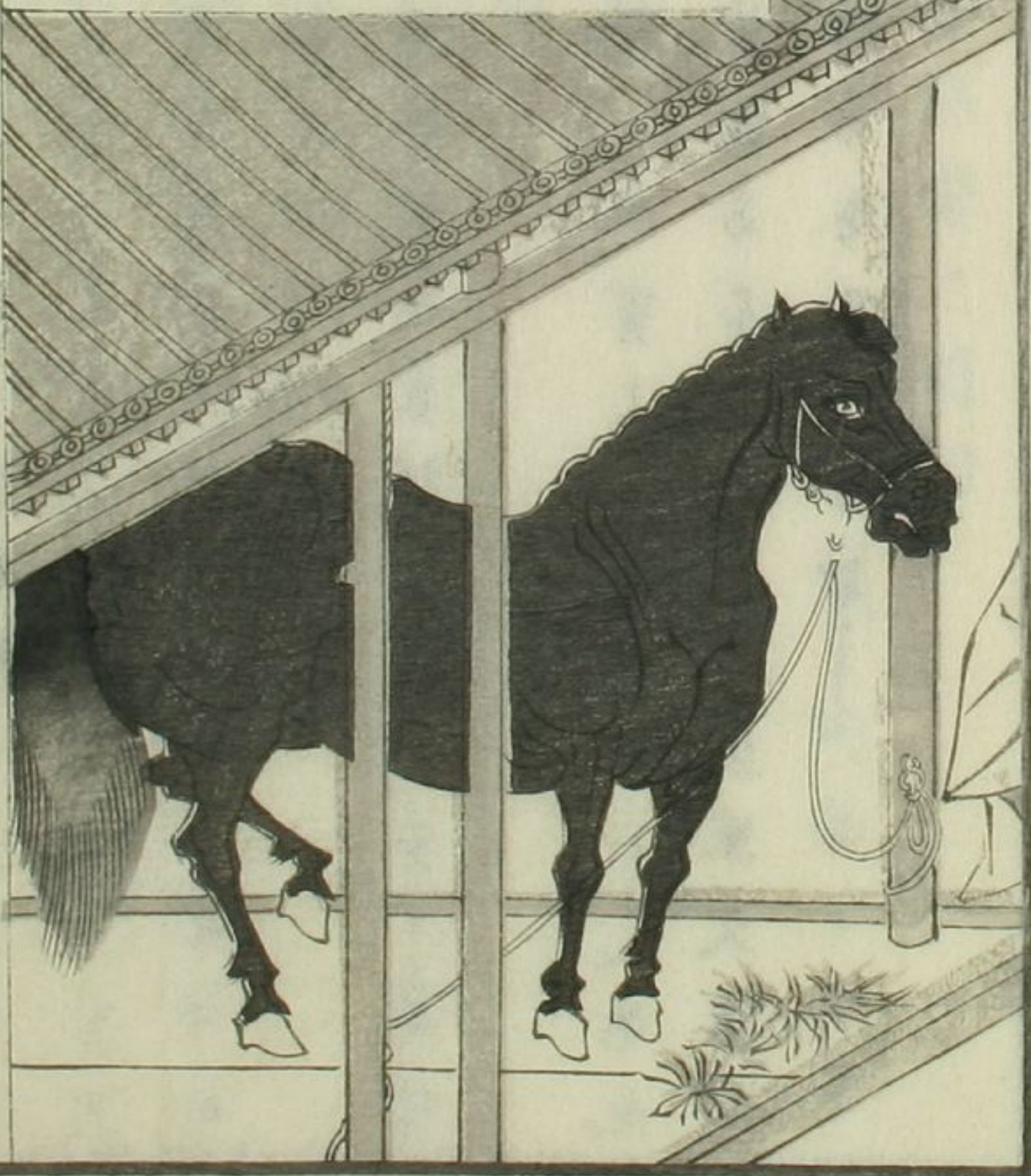
丁巳日死

醫王法藥

唵阿弥里帝娑婆訶

舍人愛深法師

馬名久十ム



買殺



家傳フル所ハ貞享五年八月ノ摹本ナリ。後附藥草圖一二據ルベキコトアリ

補知雄曰。予所見ノ摹本船裏以下佛座ニ至リテ。十七種ノ藥草圖ありて。圓融院ノ天祿元年庚午七月八日とあり。又次ハ真片假字ノ跋文ありて。七郎兵衛尉忠恭相傳之。文永四年丁卯正月廿六日甲寅西阿花押アリ

補真賴曰。此ノ繪筆者ノ名詳あらぬ。光信歟

補又曰。馬醫ノ繪一卷。畫上ハ色紙形あり。卷尾ハ十七種ノ藥草圖あり。その摹本淺草文庫ニあり。原本ハ殊勝ノものあり。云々

補馬醫繪詞

補倭錦云。土佐隆兼馬醫之圖詞

補真賴曰。上ハ掲げ今ハ馬醫繪ト同物ニヤ。考ふべし

既古圖屏風 一雙

所藏不詳。畫工不詳

補真賴曰。摹本十二枚。淺草文庫ニあり。殊勝のものをあり

補了仲曰。この繪慶應のころ。幕府より朝廷ニ獻じ

補海川圖

補古畫目錄云。海川圖。紀伊國和歌〇〇〇藏。屏風

補宇多天皇法躰御影

補山城國高山寺藏。巨勢金岡所畫。と云傳ふ



補真頼曰。三鈷と數珠をもちたまへる像あり  
摹本淺草文庫にあり

補牛若丸像

補本朝畫圖品目云。鞍馬寺牛若丸像

補真頼曰。摹本淺草文庫にあり。水干を着たる  
座像にて。うしろは扇風を立たり

補宇津宮朝綱法躰像

補集古十種部像云。藤原朝綱法躰像。下野國地藏

院藏

補宇津宮景綱法躰像

補同書云。藤原景綱法躰像。地藏院藏

衣部

江島縁起 五卷

書畫筆者未詳。相摸國江島辨財天縁起。下坊所藏

云。岩本

新編鎌倉志云。江島縁起五卷。詞書作者不知。繪ハ

土佐ナリ

補古畫目錄云。江島縁起。住吉家繪本

補古畫類聚目錄云。江島縁起繪

補春村曰。詞書の筆勢ハ源光行あらん。とおも

える。ものあり

貫雄曰。此縁起原本ハ既く失ふと云けん。現存  
せるものハ中古の摹本あらん。と住吉弘貫い  
へり也



躬行曰丙寅四月江島をのせる序は。この縁  
起をまよくして。下坊おをとめさせけるは。答  
けらく。近年岩本院と事を争ひく。問注所は。訴  
へまを志しをり。便宜よつきて。此縁起を奉行  
のをよもて出し。やがてと。めあられ  
ぬ。さるるよと。火出来て。かの奉行の館や。あぬ  
ふ。あひち。縁起を灰燼とありぬ。といひおこ  
せし。いとあたらしうを。しりき。そもく  
此縁起。鎌倉の末の頃。あどま。いできけん。とお  
を。さる。口氣にて。源光行の筆あらんとおも  
を。ふ。文勢あり。と春村翁いへりき。彼島ハも  
とより江島明神のまよ。ま。た。所あるを。あしり  
くし。く。中ころより。辨財天靈場あるよ。よ。あ

其言き。あ。たり。その東鑑卷十建仁元年六月一日  
寅刻。左金吾御參江島明神云云。又卷廿建保四  
年正月十五日。相摸國江島明神有託宜。大海忽  
變道路。仍參詣之人無船之煩。始自鎌倉國中緇  
素上下成群。誠以末代希有之神變也。三浦左衛  
門尉義村。為御使向其靈地。令參嚴重之由申之。  
と。み。延。たり。是。より。も。前。同書卷二養和二年四月  
五日。武衛令。出。腰。越。趣。江島給云云。是。高。雄。文。覺  
上人。為。祈。武。衛。御。願。奉。勸。請。大。辨。財。天。於。此。島。始  
行。供。養。法。之。間。故。以。令。監。臨。給。密。議。此。事。為。調。杖  
鎮守府將軍藤原秀衡也云云。と。あ。ま。は。辨。財。天  
の。養。和。の。文。覺。が。祀。を。め。あり。さ。あ。よ。い  
いま。志。ま。ふ。人。を。ま。ま。ら。る。ま。は。明。神。ハ。ひ。た。た



ら。隱ろひて給ひぬるこそあさましき事。  
いづこをいつこもかゝ事のにお布くて

叡福寺繪詞 殘缺一卷詞佚

好古小録云。畫法伴大納言繪詞ニ似タリ。山陵ヲ  
造ル圖アリ。古色可掬。叡福寺ノ繪ト云。是非ヲ知  
ラス

躬行曰。叡福寺ハ。河内國石川郡太子村ニ在。世  
俗上ノ太子といふ。此畫卷を尋る。既ニ本寺  
ニハ在。予曾て此古畫卷を尋る。詞ハ七やく  
佚せり

圃真頼曰。摹本淺草文庫ニあり。詞書ハ山陵  
をつくらよよて。御葬送までの繪あり。天  
延曆寺繪詞 一卷 狗一名草紙

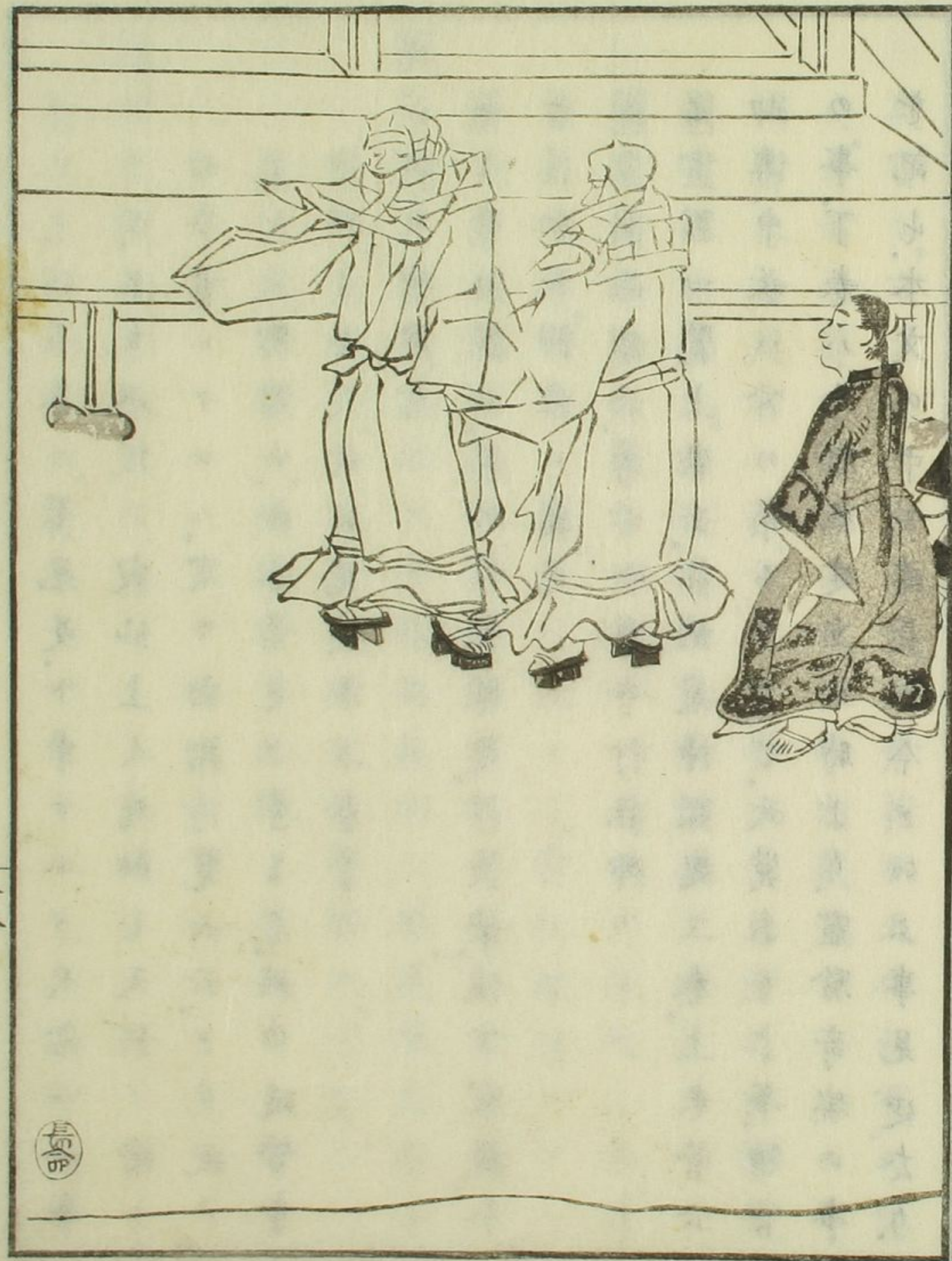
畫刑部大輔光信。詞筆者未詳

奥書云。此延曆寺縁起一軸者。土佐將監光信畫圖  
焉。妙非庸流之所及也。遂援筆解他日之惑云。寛文  
戊申年陽月下。狩野法印探幽

躬行曰。此卷光信と云るものハ誤にて。倭錦ニ  
越前守行光。天狗雙紙五卷之中。叡山醍醐の一  
卷。詞青蓮院尊道親王と云るもの是なり。曾て  
きく。此卷及東寺の卷。明治十年秋。官物とあり  
て。淺草文庫ニありといへり

圃真頼曰。壺囊抄卷八。天狗名目。漢書ノ中ニハ。  
天狗ハ流星也。則太白星ト云へり。但諸道ノ長  
者。諸宗ノ行者。依慢心成。天狗ト云ハ。其名同ジ  
ケレ共種類各別ナル歟。其モ定テ底ハ通ヒ侍





長命

殊樓

延曆寺繪詞

博物館藏

增補古今圖書集成





ラン。砂石集ニ不見及ト申サル、天狗ハ此事ニヤ。其モ八坂ノ寂仙上人遍融七天狗ノ繪ト云事書レタレハ。定テ由緒侍覽云云と見延コ  
ふ七天狗繪ハ。かゝらまことせよて。此の延曆寺繪詞も七天狗の殘缺あるを

補 荏柄天神縁起

補 古畫目錄云。荏柄天神縁起。行長筆。住吉家藏。今者荏柄天神社ニ無之

補 畫圖品類云。筆者世尊寺行能卿

補 畫圖一覽上卷云。荏柄天神縁起三卷。上卷管公御傳。中卷ハ公の崇るりとて。天災ありし事。贈官の事。下卷ハ北野社建立の時より。靈驗奇瑞の事を記シ。本文の中ニ。建長の今といふ事見延たり。

奥書ニ。右天神之御縁起。鎌倉荏柄天神社有之寫矣。筆者世尊寺行能云云。住吉内藏允

補 繪卷物奥書ニ云。于時寶曆元應曆緒之玄律大呂朔之朝而已。右近將監藤原行長

補 新編鎌倉志卷二荏柄天神云。天神縁起三卷。畫ハ土佐筆。詞書ハ藤原行能ナリ。當社縁起ニテハナシ。管相丞一代ノ事跡ヲカケリ

補 真頼曰。荏柄天神縁起摹本三卷。淺草文庫ニあり。卷尾云。此縁起荏柄天神寶物也。とあり

補 又曰。畫卷中。延喜帝の地獄ニ落たまふ所あり

補 葉衣觀世音像

補 永正三年記云。舊冬十一月十九日。三條御所御



鎮宅尊勝院光什僧正參勤云云。葉衣觀音法御修法也云云。本尊新圖其樣悉皆青色像也。御供料三千足云云。

補 叡山西塔常行三昧堂壁畫

補 日本高僧傳要文鈔卷一云。靜寬僧正傳云。年十六於東大寺受具足戒云云。又云。延長五年二月僧正於西塔常行三昧堂四面壁柱令圖繪極樂淨土矣。

補 延年舞繪

補 倭錦云。巨勢弘高延年舞衝立北野神寶

補 真賴曰。延年舞の繪の事委しくハきの部北野の内陣衝立障子畫の條ニあり見合をべし  
補 易卦繪

補 台記云。康治三年正月廿八日。先日仰畫佛師教選令書易卦。成佐語云。教選夢着禮服如御即位之五六十人許立廻加檢察令書之。其中有載三中冠之人。如主人。件人對居教選殊加檢察者。今日召教選問之。如成佐之言。

江戸莊繪圖

本朝畫圖品目云。享祿年間之圖也。

補 真賴曰。此の圖ハ畫を賞をべきものニあり

補 役行者像

倭錦云。栗田口隆光役行者

補 同 一幀

補 所藏不詳。畫工不詳。絹本。摹本。淺草文庫ニあり







真俗交談記云。鬼間繪事。人不可見之。先年相尋繪所之處。固辭申終不顯其繪樣如何。為長曰。凡此條自古至今雖聞鬼間名。未見其消息云云。秘藏故歟。然存人尤稀也。不可言上之由辭申。賦目於兩脚。親經資實同辭之。予自答曰。鬼王三面三目有一角。其色赤色也。間良方畫之。如逃去勢。又勇士一人提劍如追。鬼王顧勇士走形也。此時為長曰。朱雀門鬼者。鬼間。王所變也云云。彼鬼青色一面也。長谷雄記有之云云。青色異說也。後可決之。

補應神天皇繪緣起 三卷

補京都將軍家譜上卷云。永享五年四月廿一日。將軍家親筆應神天皇繪緣起詞三卷。神功皇后二卷。以被寄進於河內國譽田宮。

補真賴曰將軍八足利義教公あり

躬行曰譽田社。京都將軍の奉獻として縁起三卷。三韓征伐圖二卷現存せり

補真賴曰。此の繪卷ハ。譽田天皇縁起と稱するものとの別あり。本朝畫圖品目云。譽田天皇縁起一名三韓征伐二卷と見延たり。此の繪卷ハ三卷とありて。卷數合せず

大原繪 六卷

高野日記云。隆信朝臣の大老らの圖六卷。彩色筆の老筆。とどころあり。處々の詞がき同筆あり。おちりともくハ。文字かけあふまどきあめり。法性寺どのの御筆。まがふむるまは侍りし。かゝる筆づらひ。いまよふと延び。世の龜ぞとまらうあらぬ。おどま。いとくちをしくありゆくをのまをむ。寂光院の北坊にて見えべる

躬行案。大日本史云。前關白太政大臣忠通。長



寛二年二月薨。世稱法性寺關白。性謹厚。喜温不  
形于色。工詩歌。尤能書。晚年書法精妙。自成一家。  
稱法性寺様。列傳より。隆信朝臣ハ正四位  
下右京大夫。皇后宮少進。為隆男。元久二年二月  
卒也。

落久保物語繪 八卷

古畫類聚目錄載之

畫圖品類云。落久保物語八卷。畫者姓名不知。小笠原家

藏本朝畫圖品目亦同ト

補御節會繪卷 一卷

補淺草文庫藏。畫工不知。詞書北小路祥光卿。

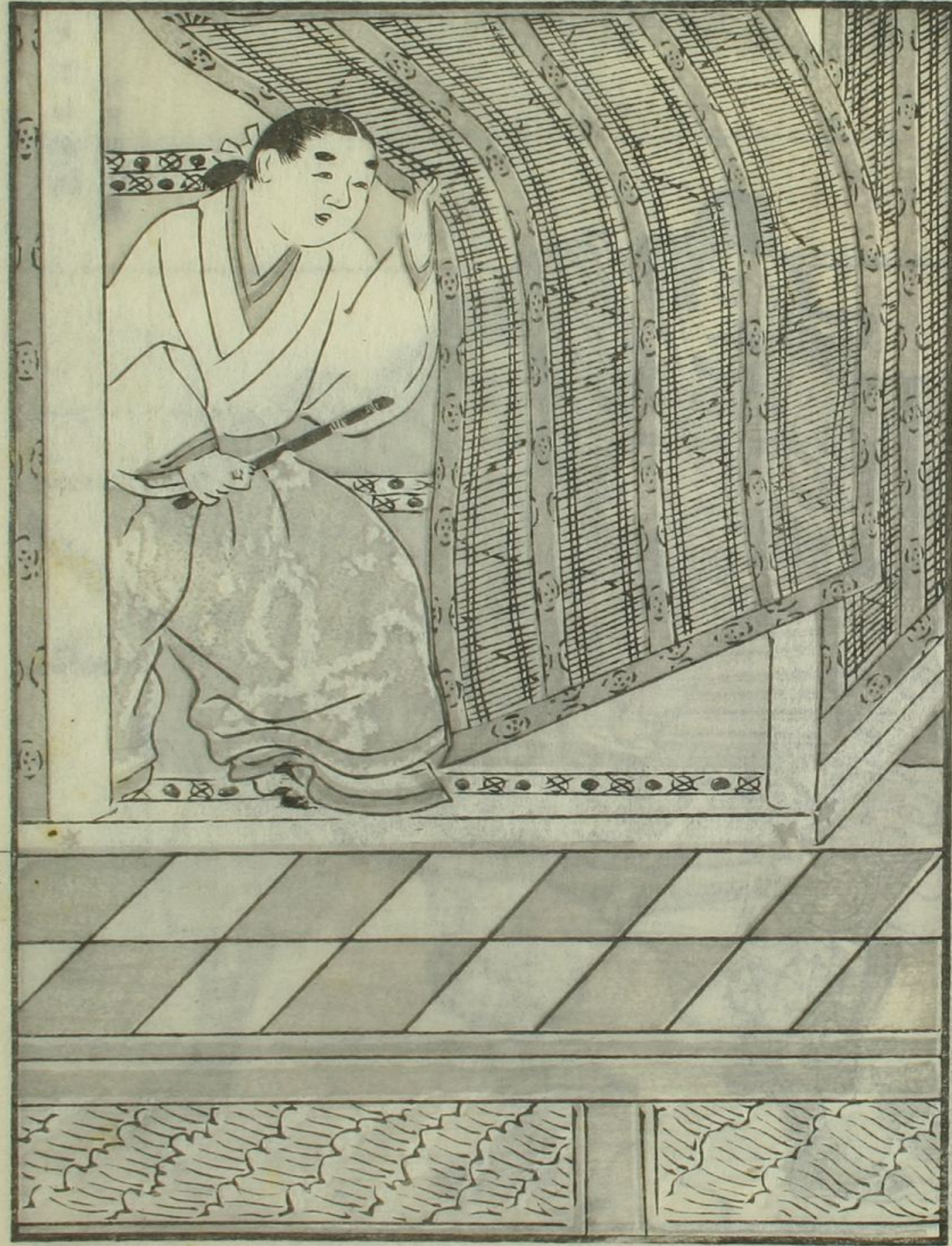
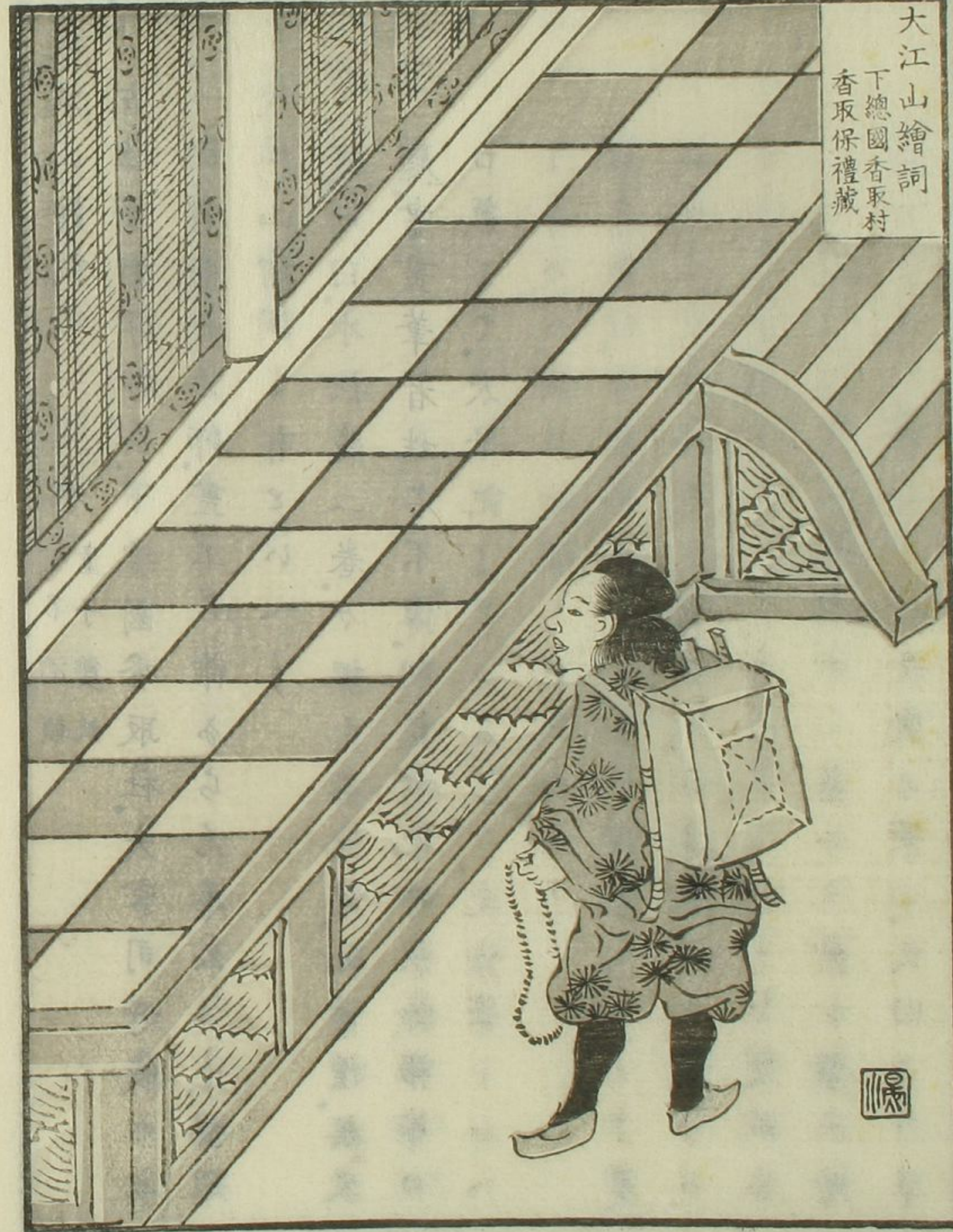
補真賴曰。この繪近世の節會のさまを畫りきたり。但繪ハ四條風に見ゆ。天皇親臨。

補真賴曰。酒類童子繪。追討圖。酒類童子繪。卷皆大江山繪詞と同類のものをて。画工の意も。いさぐさのさませり。たゞのあり。志ノ部を見合はる。

大江山繪詞 二卷 一名酒類童子雙紙  
古物語類字抄云。下總國香取社。大官司所藏の本ハ。詞書兼好法師。畫工ハ誰からん尋ぬべし。標題大江山繪詞と有といへり。  
類則曰。本社藏二卷。々。標白茶地錦。軸紫檀。無表題。書畫筆者姓名不傳。詞盛衰記。平家物語等の口氣。よて。太平記よ。よ。ふ。元信筆といへる。そのハ。詞も近俗よ。て別本あり。  
補真賴曰。香取本酒。てん童子繪卷ハ。かとき雙紙本。又古法眼本と異あり。古法眼本ハ童子のそ。を。伊吹山と。香取本と。か。と。雙紙本と。ハ。大江山と。香取本ハ。畫やう蒙古襲來繪卷のごとく。恐らくハ長隆の筆。又曰。この草



大江山繪詞  
下總國香取村  
香取保禮藏





大江山繪詞  
池田輝知藏







白目浦芳古畫譜卷二

二十六



大江山繪詞  
淺野長勳藏

增補芳古畫譜卷二



紙ハ予が見たる本三種あり。そのせが中ニ香取  
本のいとふる。きつぎさハおとぎ雙紙あり。  
そのせがつきふハ古法眼の畫がけり。といふ本  
あり

同 三卷

本朝畫圖品目云。畫狩野元信詞上卷近衛植家公。  
中卷前大僧正公助。下卷青蓮院尊鎮親王。因州家  
西洞院時慶卿記。慶長十四年六月十四日云。酒顛童子草子讀  
懸ル。同日酒吞童子ノ雙紙讀果ル。  
躬行曰。元信。永祿二年十月六日卒八十四。植家  
公。永祿九年七月十日薨六十四。尊鎮親王後柏  
原院皇子。公助僧正の受法。皆時代合へり  
又曰。時慶卿記に記する處。何れの本より知が

音

但元信の本ハ一條帝の正曆頃の事と  
近江國伊吹のおく。大江山の千丈が嶽あり。  
此童子のむゆるよをかけり。  
補真頼曰。狩野元信の畫がける。大江山繪詞三  
卷摹本。淺草文庫にあり

同 三卷

畫狩野守信。詞筆者未詳。  
補真頼曰。摹本淺草文庫ニあり。奥書云。繪狩野  
探幽藤原守信圖之とあり。此の繪卷元信本を  
以て本とせしものと見延たり。又曰。表紙に記  
したる文に云。金森出雲守殿所持。當時松平安  
藝守殿とあり。圖も元信本といひさ々異あ  
るところあり



補了悦曰狩野守信の畫りける大江山繪詞三卷ありて詞書筆者を志るさび案たるは竹中彈正少弼季有朝臣なるを。季有朝臣ハ四辻公理卿の二男あり

同 三卷

倭錦云土佐光起酒吞童子巻物

貫雄曰光起畫三卷住吉廣行依古圖補三卷合為六卷

補大江山繪 三卷

補古畫目錄云大江山繪三卷松浦忠右衛門藏

補真頼曰此の繪卷ハ大江山繪詞トハ別あり

音無雙紙 一卷

畫者姓名不傳詞書青蓮院尊鎮親王

大奥書云永祿十三年孟夏中澣之比添筆記末弟秋春

十九親王

補真頼曰音無雙紙一卷筆者詳あらば摹本淺

草文庫あり巻尾に記して云く右巻の名所

傳ふし志むらく詞を以て音るしの雙紙と名

とあり又云く伊藤修理大夫殿所持とあり案

此より此の繪光信の筆意あり

補大井川繪

補明月記要目云建永二年六月參和歌所召尊知

令畫大井川繪

補大炊殿打球御障子

補中右記云天永三年十月十九日可渡御新造大

炊殿也予依為上卿辰時許着束帶參仕中略見廻所



所之處。朝干飯壺布障子皆悉畫馬形。里亭多相具打毬也。仍俄可畫具打毬圖之由。下知繪師信貞。則令畫圖了。今立替云云

補真賴曰。大炊殿ハ里内裏あり。天永三年ハ鳥羽天皇の御時あり

補大内指圖

補後愚昧記云。應安二年二月九日。大内指圖不審事有之。仍借請九條前關白經教之處。被送繪廣幅之卷繪也。八省院豐樂芳志之至也。十三日大内繪返遣九條了

補翁三番

補倭錦云。土佐光吉翁三番二幅

大加保の車

大加保の車新十三...

古今著聞集卷十三云。後中書王具平親王雜仕を最愛せさせたまひて。土御門師房右大臣ハ。まうけたまひするあり。あさゆふ是をありまをえ。愛し給ふことかぎりあり。まひり。月のあり。りをるよ。件のはうしを具したまひて。遍照寺へおたしましたり。まよ。あの雜仕のまらさく失はけり。中書王歎きかゝし。給ふ事理りまをまきさり。あまひおなりて。日頃ありつるま。またがへせ。我御身とりせ。人との中。此兒をおきて。まへる形を。車のまの裏に繪まらきて御覽しきり。はるるど。寛治の中殿の御作文。まらる見給ひ。そのくるまを陣ま立らせける。物見おちさる。牛飼たつとて。あやまちてう



らをおきてよたて、奉り、おとたぬらる、事を  
くて、今はおほが布の車とて、のりたまへる、此  
ゆゑもとべる、とぞ申傳さる

補 鬼の繪

補後撰集戀五云、一條うをよ、いとをん戀しき  
といひよやりたりければ、あまのうたをかたて  
やるとて、一條

大鳥御琵琶

古今著聞集卷十、順徳院の御位の時、あさらし  
御びとの有るをいある名をうたぐべきと  
て、藏人孝時、風俗催馬樂の名を其歌の詞の

中よ、さもありぬべあらむ、注申すべきよ、勅定  
有けむバ、即注進しけり、其中は大鳥の入たり  
るを、是もてこそあらめとて、其名ははごまり  
けり、さて撥面の繪はか、むと志する時、そも  
そも此鳥のそが、さ、い、ある物ぞ、誰ぞたる  
と御たづぬ有るは、申人ありを、源大納  
言通具御繪様候とて奉りけり、ひよ鳥の色  
さる鳥の、目嘴をど、恐しげぬるが、ふとくみ  
ある姿あるを、書てまゐらせたり、御らんと  
て、こむハ、あま、み、あま、と、ふるく本  
あり、又此定あるを注したる物あり、と御たづ  
ぬあるは、大納言詳まうをむねあり、只象も  
あふるくよりうつし、ちて候、とむあり申さ



たり。さてハ其事正体あり。此人ハかゝ事を人  
よこそと比之有て。をちるらせ以ありはひり。さ  
て孝道朝臣ハ御たづね有きせバ。風俗よりさひ  
て候様ハ。大とりの羽ハ霜ふれりと候ハ。をハ  
鵲ハどよてや候らん。とぞ推せらせて候ハ。はらぐ  
ハ口傳ハ候をぞ。たゞ歌の詞ハて推し申計よて  
候と申せせバ。この事さもありとて。鵲をか、せ  
よりとぞ

躬行按ハ。おちとり。和名抄ハ鵲野王案。鵲漢語  
抄云。古布。日本紀私記ハ久々比大鳥也。新撰字  
鏡ニ久々比又古比ま。和名抄ニ鵲於保止利。  
類聚名義抄。鵲オホトリカドミ。神樂湊田ニ  
久々比也。川乎里カドミ。あるを。おちとりとて。

鵲をありせし。頗無念よこそ

補大穴牟遲命像

補古畫類聚目錄云。大穴牟遲命像。山城國稻荷山  
社人藏

補應神天皇御影

補集古十種肖像云。應神天皇御影。河内國譽田八  
幡宮藏

補真賴曰。天皇衣冠の御影あり。筆者不詳

補太田持資法躰像

補同書云。源持資法躰像。藏未詳

補真賴曰。此の像袈裟をかけたり

補大井尼像

補甲府瑞雲山長禪寺住持大井尼公按武田機山公  
母号瑞雲院信



井州岩村田城主也。大肖像贊云。予茲有孝子。新羅後裔。信廉公。自描慈母之容顏。需於贊。不能辭。卒掇一章。以應其求。云。分明描出是酬恩。彈力高聲喚茂言。老拙點閱半邊眼。有無照破盡乾坤。昔天文廿又二。昭陽赤奮若。道月如意珠。奠前永平安之史。玄穩贊。

補織田信忠像

補集古十種肖像部云。平信忠卿像。山城國大德寺塔中大雲院藏。

補真賴曰。束帶の像あり。黒袍を着せり。

補同

補同書云。同像。同藏。

補真賴曰。束帶の像あり。亦黒袍を着せり。但前圖よりハ。年わうく見ゆ。

補同

補京都大雲院藏

補真賴曰。集古十種。此の圖を掲げど。束帶の像あり。袍ハ窠文あり。摹本淺草文庫あり。

補同法躰像

補集古十種肖像部云。平信忠卿法體像。高野山三昧院藏。

補大友宗麟像

補大德寺瑞峯院藏。畫工不詳。摹本淺草文庫あり。

補真賴曰。袈裟を掛け。右手ハ扇をよせてる坐像あり。



增補考古畫譜卷二

增補考古畫譜卷二終

全  
明治十六年四月四日出版  
年六月出版  
權屈



博物局藏版

發兌書肆

有隣堂  
穴山篤太郎

東京京橋區南傳馬町貳丁目拾三番地



